

小麦栽培情報 11月号

令和3年10月14日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【小麦】

1 排水対策

小麦は湿害に弱く、排水不良田では根傷みや生育ムラ、枯熟れ等の原因となります。安定生産に向けて、周囲溝や枕地作溝等の**表面排水対策**と本暗きょや弾丸暗きょによる**地下排水対策**を組み合わせ実施し、排水対策を徹底します。

また、表面排水対策は、枕地で滞水しないよううね溝を排水口までつなぎます。

2 土壌改良資材施用

小麦は酸性に弱く、土壌pHが低いと生育および収量・品質が低下します。また、土壌中のケイ酸が不足すると倒伏や登熟に影響します。そのため、下表を参考に土壌改良資材を施用し、麦の高品質・安定生産に努めます。

また、地力維持および人と環境にやさしい農業の推進のため、稲わらは焼却せずすき込みます。

施用効果	資材名および施用量の目安
土壌pH矯正	炭酸苦土石灰(140～200kg/10a)
ケイ酸補給	とれ太郎(60kg/10a)、土力の素(45kg/10a)
土壌pH矯正、ケイ酸補給	ミネラルG(140～200kg/10a)

3 播種

(1) 播種適期

小麦 11月20日～30日

※適期播種を心がけ、晩播限界の12月15日までに播種します。

※ヤギシロトビムシ多発田では、播種適期内になるべく早く播種します。

(2) 播種量

	大豆後作	《適期播き》	晩播
小麦 播種量	5～6 kg/10a	6～7 kg/10a	8～10kg/10a

※大豆後作は生育が旺盛になり倒伏しやすくなるため、基準より播種量を減らします

※適期より遅れて播種する場合、生育量確保のため基準より播種量を増やします

(3) 種子消毒（小麦）

裸黒穂病やヤギシロトビムシ等による被害を防ぐため、種子消毒を徹底します。ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤での種子消毒を基本とし、ヤギシロトビムシ多発田ではベンレートTコートとクルーザーFS30での種子消毒を実施します。

薬剤名	対象病虫害	処理方法
ベンレートTコート	裸黒穂病等	種子10kgに薬剤50gを乾粉衣する
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビムシ	種子10kgに薬剤15gを乾粉衣する
クルーザーFS30	ヤギシロトビムシ (多発田)	種子10kgに薬剤60mlを塗沫する

4 施肥基準（10a当たり）

	品種名	基肥	追肥（1月下旬）		穂揃期追肥
		ちくごのめぐみ 444	麦追肥一発 1号	硬質小麦専用 追肥3004	硫安
水稻 後作	シロガネコムギ	40kg	40kg	—	—
	ミナミノカオリ	40kg	—	40kg	10kg
大豆 後作	シロガネコムギ	30kg	30kg	—	—
	ミナミノカオリ	20kg	—	30kg	10kg

※穂揃期追肥を尿素の葉面散布で行う場合は、**開花期に10a当たり尿素5kg**を100Lの水に溶かして散布します。ただし、高温時の散布や、尿素の濃度が高いと、葉焼けの程度が激しくなる場合があるため注意します。

5 雑草対策

○播種後の土壌処理剤（以下のいずれかの薬剤を使用）

使用薬剤名	使用時期	10 a 当たり 使用量	使用上の注意
リベレーター フロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑草1葉期)	60～80ml (水100L)	・ 砕土、整地は丁寧に行い覆土深が2～3cmになるように覆土する ・ 土壌が湿りすぎていると効果むらや薬害の原因になることがある ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない
リベレーターG (粒剤)	播種後～麦2葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑草1葉期)	4～5 kg	

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル（農薬基準）を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！